

愛別町教育委員会点検・評価報告書
(令和6年度対象)

令和7年9月

愛別町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、議会に提出するとともに、公表することになっております。

このため、教育委員会では、法の趣旨に基づき効果的な教育行政を推進し、町民への説明責任を果たすという観点から、教育委員会の点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

令和2年度から第1次愛別町教育振興基本計画がスタートして、計画の進行管理を行う中で成果や課題を評価・検証することになっておりますので、この報告書を基本計画の進行管理とリンクすることとします。

目 次

1. 教育委員会の活動状況について	1
2. 教育振興基本計画の評価指標と評価の方法について	3
3. 教育振興基本計画の達成状況と評価について	
1 幼児教育	4
2 学校教育	6
3 社会教育	16
4 文化の振興	20
5 スポーツの推進	21
6 基盤整備	23
7 地域の教育力の向上	24
8 家庭教育	25

1. 教育委員会の活動状況について

教育委員会の開催状況

開催月日	提 出 議 題 等	
令和6年4月24日 (令和6年第6回)	議 案 報 告 報 告 報 告 報 告	愛別町学校運営協議会委員の任命について 教育長に委任された事務の管理及び執行状況について 臨時代理の報告について 臨時代理の報告について 臨時代理の報告について
令和6年5月13日 (令和6年第7回)	議 案 議 案 議 案 議 案 報 告	愛別町いじめ対策協議会委員の任命について 愛別町教育振興基本計画策定委員の委嘱について 愛別町教育振興基本計画の策定について 愛別町義務教育学校開校準備委員会設置要綱の制定について 臨時代理の報告について
令和6年6月11日 (令和6年第8回)	議 案 議 案 報 告 報 告	愛別町義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について 教育委員会の意見を聴取する令和6年度教育委員会補正予算について 臨時代理の報告について 臨時代理の報告について
令和6年7月25日 (令和6年第9回)	議 案 議 案 議 案 議 案 報 告 報 告 報 告	愛別町教育委員会事務局職員の任命について 愛別町幼児センター運営委員会委員の委嘱について 文化財収蔵庫内収容物の保存及び活用等について 愛別町振興計画審議会委員の推薦について 臨時代理の報告について 教育長に委任された事務の管理及び執行状況について 臨時代理の報告について
令和6年8月26日 (令和6年第10回)	議 案 議 案 議 案 議 案 議 案 報 告	全国学力・学習状況調査結果の公表について 令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価について 教育委員会の意見を聴取する令和6年度教育委員会補正予算について 愛別町教育委員会委員の辞職同意について 文化財収蔵庫内収容物の保存及び活用等について

開催月日	提 出 議 題 等	
令和6年9月24日 (令和6年第11回)	議 案	愛別町立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則について
令和6年10月10日 (令和6年第12回)	報 告	愛別町教育委員会教育長職務代理者の指名について
令和6年11月14日 (令和6年第13回)	議 案 議 案	愛別町部活動地域移行検討委員会設置要綱の制定について 愛別町立愛別中学校部活動指導員の任用について
令和6年12月17日 (令和6年第14回)	議 案 議 案 報 告	愛別町立学校職員の在宅勤務実施要綱の制定について 愛別町部活動地域移行検討委員会委員の委嘱について 臨時代理の報告について
令和7年1月12日 (令和7年第1回)	報 告	教育長に委任された事務の管理及び執行状況について
令和7年1月27日 (令和7年第2回)	議 案 議 案 議 案	愛別町教育委員会事務局職員の任免について 令和7年度学級編制について 令和6年度愛別町教育表彰被表彰者の決定について
令和7年2月26日 (令和7年第3回)	報 告 議 案 議 案 議 案	臨時代理の報告について 教育委員会の意見を聴取する令和7年度予算について 教育委員会の意見を聴取する令和6年度教育委員会補正予算について 愛別町教育振興基本計画について
令和7年3月7日 (令和7年第4回)	報 告 議 案 議 案 議 案 議 案 議 案	臨時代理の報告について 愛別町町費負担教員任用規則の制定について 愛別町立学校管理規則の一部を改正する規則について 愛別町立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則について 愛別町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について 愛別町外国青年任用規則の一部を改正する規則について
令和7年3月26日 (令和7年第5回)	議 案 議 案 議 案 議 案 議 案 議 案	愛別町教育委員会事務局職員の任免について 愛別町公民館運営審議会委員及び愛別町社会教育委員の委嘱について 愛別町公民館分館長及び主事の委嘱について 愛別町スポーツ推進委員の委嘱について 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について 愛別町教育支援委員会委員の委嘱について

開催月日	提 出 議 題 等	
令和7年3月26日 (令和7年第5回)	議 案	愛別町立小中学校体育施設開放事業管理指導員の委嘱について
	議 案	愛別町学童保育主事補の委嘱について
	議 案	愛別町スクールガード・リーダーの委嘱について
	議 案	愛別町地域学校協働活動推進員の委嘱について
	議 案	愛別町スクールランチ事業実施要綱の一部を改正する要綱について
	議 案	愛別町スクールランチ事業実施要領の一部を改正する訓令について
	議 案	就学援助費に係る事務取扱要領の一部を改正する訓令について

2. 教育振興基本計画の評価指標と評価の方法について

第1次愛別町教育振興基本計画では、学校教育と社会教育の分野ごとに成果指標を設け、計画策定時の現状値から5年後の目標値を設定しています。

評価の方法としては、毎年度の実績値と目標値の成果指標を掲載し、実績値に対する所見や成果指標以外の取り組み状況から、取組実績に対する自己評価と今後の課題や方向性について明らかにすることとしています。

第1次愛別町教育振興基本計画（抜粋）

第7章 計画の推進と進行管理

2 計画の進行管理

教育施策を着実に、かつ、効果的に実施していくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく「教育委員会事務点検・評価」により、各施策・事業の実施状況を点検・評価するとともに、その結果を施策の展開に反映させながら実効性の高い取組を進めます。また、計画の推進成果をわかりやすく確認できるよう「成果指標」を設定し、進行管理にあたります。

成果指標については、5年目に4年目までの成果や課題を評価・検証し、必要に応じて目標等の見直しを図り、次期の新しい計画へとつなげていくこととします。

3. 教育振興基本計画の達成状況と評価について

1 幼児教育

(1) 生涯にわたる学びの基礎を培う質の高い幼児教育の実現

- ・ 幼児教育の質の向上
- ・ 交流と連携の促進と充実
- ・ 保育環境の充実

○成果指標

	R 6 実績値		目標値	
①幼児センターの保育に対する肯定的な意見の保護者の割合	行事の充実 元気に楽しく登園	100% 97%	行事の充実 元気に楽しく登園	95% 100%
②家庭や地域と連携し、子育て支援に努めているとする教員の割合	子育て支援に努めた とする教員の割合	100%	図られたとする教員 の割合	100%
③より良い環境構成や援助の工夫に 努めているとする教員の割合	工夫に努めたとする 教員の割合	93%	工夫に努めたとする 教員の割合	100%

※幼児センター保護者アンケート及び幼児センター職員自己評価

【取組状況】

幼児教育の質の向上を図るための職員研修については、年度当初に計画していた研修をほぼ行うことができました。特に、幼児の実態把握の方法や指導の方策について全職員が参加し、2回にわたり全体研修を行ったことは大きな意義がありました。園外研修は、北海道教育大学付属旭川幼稚園で開催された上川管内国公立幼稚園・こども園教育研究大会に参加し、保育教諭の質の向上に努めました。

また、特別な配慮を必要とする幼児への支援については、特別支援教育支援員1名による支援体制を継続し、保護者の悩みや不安の聞き取り、医療機関への同行を行い、保護者への支援の充実に努めました。更には、月1回開催されるケース会議において、美深高等養護学校あいべつ校や上川中部こども通園センターから職員を招き、困り感のある幼児への援助の手立てについて助言をいただき、支援の充実に努めました。

交流と連携の促進と充実については、小・中学校との交流を予定通り行うことができ、交流を深めることができました。ほうらい大学や高齢者との交流は、昨年度同様今年度も実施することができ高齢者との交流を行ってきました。

また、幼小連携については、幼小の職員による全体研修の中で、幼児や児童の実態から、課題となる点を洗い出し、幼小で連携して育てていきたい力について検討しました。

保育環境の充実については、環境構成会議を3回開催し、未満児と以上児に分かれ、会計年度任用職員を含めて、より良い環境構成や幼児への援助について協議を行い、日常の保育環境の充実に努めました。

また、各行事については、これまで、新型コロナウイルスによる感染防止の観点から、運動会及び保育生活発表会については、3歳未満児と3歳以上児に分けて行う2部制により実施をしてきました。今年度も運営上進めやすいことから、前年度同様の2部制にして

開催を致しました。その他の行事については、職員間でより良いものとするため、事前に協議や打合せを行い、実施することができました。

【自己評価】

職員研修については、リモートによる研修が多くなりましたが、年度当初に計画していた研修をほぼ予定通り行うことができ、会計年度任用職員を含めた全職員を対象に全体研修を行ったことにより、職員の質の向上を図ることができました。

また、特別な支援を必要とする幼児への支援、幼小連携の取組みについては、保護者や小学校と連携して適切な対応ができました。

交流事業については、ほうらい大学や高齢者との交流を行いました。また、小・中学校と交流を行うことにより、小・中学生のお兄さん、お姉さんと交流を行えたことは大変意義がありました。

また、幼小連携についても、職員の意見交換などを行うことにより、連携を深めることができました。

環境構成の充実、保育の充実にはかせないことであり、これまでよりは環境を整えているように思いますが、子どもの満足感を得られるまでにはなっていない状況です。

行事については、より良い内容になるよう、職員でアイディアを出し合い、実施したことは、意義のあるものになりました。

【今後の課題・方向性】

幼児教育の質の向上については、保育教諭としての資質向上を図る観点から、今後も各研修に積極的に参加します。

また、特別な支援を必要とする幼児への支援、幼小連携の取組みについては、引き続き、保護者や小学校と連携し、ニーズに応じた対応を行います。

小・中学校等との交流事業及び幼小連携の取組についても、継続して実施していきます。

保育環境の充実については、より良い環境構成を行うため、環境構成会議で協議を行い、これまで以上に子どもの満足感を得られるよう、適切な環境構成や援助を行うとともに、安全面の配慮として、けがや事故を未然に防ぐため、保育者の立ち位置や子どもの動線に配慮した環境づくりを行い、子どもへの目配りを充分に行っていきます。

また、引き続き、職員間で事前に打合せや話し合いを行い、各行事の充実に努めていきます。

（２）子育て家庭をつなぎ、支える支援活動の充実

・子育て支援活動の推進

○成果指標

	R 6 実績値		目標値	
①広場や各種事業への対象者の参加率	親子で楽しむ行事の参加率		親子で楽しむ行事の参加率	
	のびっこ教室	31.5%	のびっこ教室	30%
	親子あそび	39.9%	親子あそび	25%

※のびっこランド事業報告

【取組状況】

のびっこ教室と親子あそびを毎月1回、ミニ講座を年間10回、ぐんぐん広場を年間7回計画し、計画どおり実施することができました。

また、子育てに不安や悩みを持つ保護者をサポートし、悩みを他の保護者と共有することができる機会や相談できる場所を提供するため、事業のない日は開放日として、ハイハイ広場やよちよち広場、のびのび広場、わくわく広場、おでかけ広場等を行い、毎月1回「のびっこ通信」を発行しました。

【自己評価】

計画どおり事業を実施することができ、保護者からは、のびっこランドの事業に対し、肯定的な意見が多くあり、事業内容の充実や子育て家庭のネットワークづくりの推進から、子育て支援活動推進の目標が達成されている状況です。

【今後の課題・方向性】

成果指標では、行事の参加率が目標値を達成しましたが、引き続き、保護者のニーズに合わせた新たな事業実施や事業内容の充実を図ります。

2 学校教育

（1）社会で生きる力を育む社会に開かれた教育課程の実現

- ・確かな学力の育成
- ・国際理解教育の充実
- ・情報教育の充実
- ・キャリア教育の充実

○成果指標

	R 6 実績値		目標値	
①全国学力調査の正答率が全国平均に達している領域数	国語 小学校6年 11/14 中学校3年 5/15	算数数学 12/16 7/16	両学年とも、すべての領域で全国平均を上回る	
②外国の人と交流したい、外国のことを知りたいと思う児童生徒の割合	項目なし		小学校6年	90%
			中学校3年	90%
学校の授業以外で英語を使う機会があった児童生徒の割合	項目なし		中学校3年	50%
③コンピュータ等のICTを週1回以上使用したとする児童生徒の割合	小学校6年	93.7%	小学校6年	60%
	中学校3年	100%	中学校3年	100%
④将来の夢や希望を持っている児童生徒の割合	小学校6年	93.8%	小学校6年	100%
	中学校3年	66.7%	中学校3年	100%

※全国学力・学習状況調査

【取組状況】

確かな学力の育成については、特別支援教育支援員の配置、町教委主催のチャレンジゼミ（旭川練成会との連携事業）を実施し、一人一人に対応したきめ細かな指導体制を構築し、学力向上に努めました。

国際理解教育の充実については、令和元年8月から外国語指導助手を2名体制とし、小学校と中学校への常駐を継続しております。また、中学校の英語教諭による小学校5・6年生の外国語への本格的な乗り入れ授業（専科指導）も4年目になり、定着しています。さらに英語検定の検定料の助成を行い、英語への学習意欲や英語力の向上を図っています。

情報教育の充実については、1人1台端末の積極的な活用に向けて、学校と連携し、主体的・対話的で深い学びを支える教育環境の充実を図っています。

キャリア教育の充実については、社会教育事業「夢の教室」を活用し、夢を持つことの大切さなどを考える機会をつくりました。

【自己評価】

令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果は、小学6年生の国語・算数はともに全国・全道平均正答率を上回る結果でした。中学3年生は数学が全国・全道平均正答率並み、国語は全国・全道平均正答率を下回る結果となりました。しかしながら、道教育委員会による指導法工夫改善加配や町教育委員会による特別支援教育支援員の配置により、少人数指導やTT指導を行うことで個に応じた指導ができ、学力の底上げができています。

中学生対象のチャレンジゼミは36.6%の参加申し込み者がありました。今年度はチャレンジゼミと付随し、集合学習会を5回実施したところ、回数を重ねるたびに参加者も増え、生徒の学習に対する意欲向上が図られたと思われます。

小学校外国語活動及び小・中学校外国語の教科指導においては、ほぼ毎時間ALTとのTT指導を実施しており、外国人や英語に対する苦手意識はなくなっていると考えられます。中学校教諭の乗り入れ授業については、5・6年生外国語の専科指導を中学校教諭が行うことにより、小学校の外国語科の充実がいつそう図られています。

ICT機器の活用については、児童生徒の発達段階や教科によって活用頻度に若干の違いがあるものの、タブレット端末を活用した学習が進められている状況です。小・中学校ともにタブレット端末の持ち帰りが軌道に乗り、家庭での学習にも活用しています。

キャリア教育の充実については、「夢の教室」を開催し、講師とともに身体を動かす中で、講師の運動能力の素晴らしさを実感したり、講師の実体験に基づく思いや願いを受け止めたりして、自分の夢をもち、目標に向けての取組を継続することの大切さを感じてきたのではないかと考えます。

【今後の課題・方向性】

全国学力・学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の学力の実態を早い時期に客観的に把握することで日常の指導に活かしていきます。

外国語活動及び小・中学校の英語指導については、引き続きALTを小・中学校に配置し、担任及び教科担任とALTが連携し充実を図ります。また小学校高学年の英語指導については、乗り入れ（専科）とALTによる授業を継続し、英語力の向上を目指します。

また、英語検定の検定料の助成を引き続き行い、中学校卒業時に英検 3 級程度能力の取得率 50%以上を目指します。

チャレンジゼミについては参加状況等を考えた結果、チャレンジゼミを廃止し、新たな取り組みとして小学校で使用している学習アプリを中学校にも導入することで継続した学習環境をつくり、全生徒が家庭で学習することができる体制を整えます。

I C T機器の活用については、児童生徒一人一人に配付されたタブレット端末を児童生徒が「文房具」の一つとして効果的に使用することが求められています。本町では、小・中学生ともに毎日持ち帰り、学校での活用に加え家庭学習における活用も進んでいます。また、タブレット端末を効果的に活用した授業構築の研修が必要と考えます。

「夢の教室」は、キャリア教育としてこれまで実施してきましたが、今後は近隣の大学と連携し、学生との交流を踏まえたキャリア教育にシフトしていくため、今年度で終了とします。

(2) 豊かな人間性と社会性を育む道德教育の充実

- ・ 道德教育の充実
- ・ ふるさと教育の充実
- ・ 読書活動の推進
- ・ いじめ・不登校を解消する取組の充実

○成果指標

	R 6 実績値		目標値	
①自分には良いところがあると思う児童生徒の割合	小学校 6 年	87. 5%	小学校 6 年	100%
	中学校 3 年	91. 6%	中学校 3 年	70%
②地域の行事に参加している児童生徒の割合	項目なし		小学校 6 年	95%
			中学校 3 年	100%
③1 日に 30 分以上読書をする児童生徒の割合	項目なし		小学校 6 年	45%
			中学校 3 年	25%
④いじめはどんな理由があっても良くないとする児童生徒の割合	小学校 6 年	100%	小学校 6 年	100%
	中学校 3 年	100%	中学校 3 年	100%

※全国学力・学習状況調査

【取組状況】

道德教育については、「特別な教科 道德」の時間を要として、学校の教育活動全体を通して道德性を養ってきました。

ふるさと教育については、地域学校協働本部と連携し、地域の教育資源を生かした取組（達人クラブ・スキー授業における指導補助）が行われています。

読書活動の推進については、各学校における朝読書の継続や自動車文庫 ai-ai の運用、「愛 L O V E ぶっくんライターコンクール」を通して、図書に親しむ機会の充実に図り読書形成に努めました。

生徒指導については、いじめや不登校などはどの学校でもどの子どもにも起こり得るという危機感を共有させ、特にいじめについては、絶対に許されないという認識にたち、子

どもの内面に寄り添う生徒指導に努めています。

【自己評価】

学校の教育活動における道徳指導は的確に行われ、児童生徒は概ね自己肯定感をもち毎日の生活を送っています。「特別の教科 道徳」の教科指導についても、各学校において、参観日及び校内研修等で授業公開が行われ、指導力の向上を図ることができました。

ふるさと教育については、小学校では達人クラブ等も行われ、地域の教育資源の活用ができています。

読書活動の推進においては、朝読書等さまざまな取組を通して図書に親しむ機会の充実を図り読書習慣の形成に努めていますが、自動車文庫 ai-ai の巡回の利用者についてはあまり多くないことから、利用者増加のための施策を考えていく必要があります。

生徒指導については、いじめや不登校などについて情報を共有し適切に対応しており、生徒会のいじめ撲滅運動等を通して、いじめを許さないという認識が高まっています。

【今後の課題・方向性】

道徳教育の要となる年間 35 時間、教科書を用いた「特別な教科 道徳」の授業において問題解決的な学習や体験的な学習を適切に入れるなど、「考え、議論する道徳」の実現に向けて指導方法の工夫・改善を行っています。また、家庭や地域社会との連携を図り、学校の教育活動全体を通して道徳性を養う指導を推進していきます。

ふるさと教育については、「職業体験学習」を地域の事業所に協力を願ったり、「達人クラブ」においては地域の人材活用を継続したりして推進していきます。

読書活動については、自動車文庫 ai-ai の巡回や学校ブックフェスティバルなど、図書に親しむ機会の充実を図るとともに、令和 6 年度からは会計年度任用職員として図書司書を任用し、学校図書室の環境整備等を通して読書習慣の形成に努めています。また、自動車文庫 ai-ai の巡回日の周知方法を工夫し、利用者増を図っていきます。

生徒指導については、今後も多様化する児童生徒の問題行動に対して適切に対応し、いじめは絶対に許されないという強い認識をもてるような取組を進めていきます。

(3) 健やかな体を育む体力づくりと健康教育の推進

- ・ 体力・運動能力の向上
- ・ 食育の推進
- ・ 健康教育の充実
- ・ 望ましい生活習慣の確立

○成果指標

	R 6 実績値		目標値
①全国体力・運動能力等調査で全国平均に達している項目数	男子 小学校 5 年生 5/8 中学校 2 年生 4/8	女子 7/8 5/8	全国平均を 男子は全項目を上回る 女子は半数を上回る
②朝ご飯を毎日食べてくる児童生徒の割合	小学校 6 年生 中学校 3 年生	87.5% 100%	小学校 6 年生 100% 中学校 3 年生 85.0%

③運動(体を動かす遊びを含め)やスポーツは大切とする児童生徒の割合		男子	女子		男子	女子
	小学校5年生	100%	100%	小学校5年生	100%	100%
	中学校2年生	100%	100%	中学校2年生	100%	100%
④毎日、同じくらいの時刻に起きたり、寝たりしている児童生徒の割合		寝る時刻	起きる時刻		寝る時刻	起きる時刻
	小学校6年生	75.1%	81.3%	小学校6年生	75%	95%
	中学校3年生	91.7%	91.7%	中学校3年生	75%	100%

※全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【取組状況】

体力・運動能力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施しました。また、発達段階に応じた体力の向上を目指した体育行事（運動会・マラソン大会・体育大会・中体連大会）を開催しました。また、異年齢の児童生徒が一緒に行うスポーツ少年団活動や部活動など運動に親しむ機会を設けました。

食に関する指導については町の管理栄養士を講師に招き、食育の授業を行い、フッ化物洗口については、ここ数年コロナ禍のため中止していましたが、今年度から再開することができました。

また、町連携教育推進委員会の活動を通じて、体育・保健授業の工夫の一つとして中学校の体育教諭による小学校6年生の体育への出前授業を行い、児童の体力・運動能力向上のきっかけづくりになる取組を継続しています。

【自己評価】

体育行事や異年齢の児童生徒が一緒に行うスポーツ少年団活動・部活動など、運動に親しむ機会を前年度よりも確保することで、発達段階に応じた体力向上や運動習慣の形成に努めることができました。

食に関する指導については食育の授業を行うことで児童生徒の食に対する意識向上を図ることができました。

フッ化物洗口については今年度から再開することができ、児童生徒のむし歯予防対策を行うことができました。

保健体育の授業等もICTの効果的な活用等により、充実した内容になっており、連携事業の小学校体育への出前授業においても専門的な指導が行われています。

【今後の課題・方向性】

体力・運動能力の向上については、実態調査やICTを活用した体育授業の工夫・改善、運動会や体育大会など体育的行事の充実はもとより、スポーツ少年団活動や部活動など、運動に親しむ活動を支援します。また、町連携教育推進委員会の活動を支援し、小学校体育の出前授業により、専門的な見地から体育・保健授業の工夫と改善を行い、運動に親しむ機会の確保と充実を図ります。しかし、中学生の体力については、運動型の部活動に参加している生徒と他の生徒との二極化が課題となっています。

食に関する指導については、今後も町の管理栄養士等を活用し食育の授業等を行います。

フッ化物洗口についても「永久歯が生え揃う14歳頃までむし歯予防を行うことが大切」とされていることから、子どもたちの健康な歯の育成のための効果的な歯科保健対策として、引き続き実施していきます。

望ましい生活習慣においては、ゲーム・スマートフォン等の情報メディアとの関わり方が大きな柱となります。家庭や地域と連携した取組を推進していきます。

(4) 開かれた学校運営と信頼される学校づくりの推進

- ・学校経営の充実
- ・学校間連携の推進
- ・安全教育の充実

○成果指標

成果指標	R 6 実績値				目標値			
	運動会 体育大会	学芸会 文化祭	年度末		運動会 体育大会	学芸会 文化祭	年度末	
①学校行事、年度末保護者アンケートの回収率	小学校 中学校	実施 なし	実施 なし	56.8% 78.0%	小学校 中学校	80% 100%	80% 100%	80% 100%
②教育連携推進委員会事業の達成状況	乗り入れ授業、(英語・体育・音楽)、幼小連携(幼児児童交流、職員研修)				確実な継続			

【取組状況】

学校間連携の充実と小中一貫教育の意識醸成を図るため、連携教育推進委員会を通して「連携通信」を発行し、小中それぞれの学校の様子の共通理解を図っています。

学校間交流事業については、従来行っていた「クリーン作戦」の内容を変更し、新たな取組として青少年育成協議会と連携し、児童生徒と町民ボランティアによる「町内花壇片付けボランティア活動」を計画しましたが、低温・曇天による天候不良により残念ながら中止となりました。乗り入れ授業、幼中の交流事業は引き続き実施しています。

安全教育については、地域や関係団体と連携し、交通安全教室やスマホ安全教室等を開催し、安全意識を高める指導に努めています。

【自己評価】

学校経営の充実を図るため、各学校において教育課程の創意工夫を行い、学校運営における重点目標と評価に関わるカリキュラムマネジメントの確立を目指して教職員一同で協力して取り組み、充実した学校運営ができています。

学校間連携についても「連携通信」や「乗り入れ授業」等を実施することにより連携を図ることができました。

安全教育を通して、児童生徒は安全に関する知識を活用し、学校生活や日常生活の中で判断し行動できるようになっています。

【今後の課題・方向性】

学校経営については引き続き小中共通の「学校運営 10 の指標」を基調として、学校経営の評価と改善を図っていきます。

学校間連携事業についても義務教育学校の開校を見据えて、更なる小中連携推進の充実に努めていきます。

安全教育については、引き続き学校の教育活動の中で、関係団体と連携を取りながら推進していきます。

(5) 教育的ニーズに応え、だれもが輝く特別支援教育の推進

- ・ 教育的ニーズに応じた教育の推進
- ・ 切れ目のない一貫した指導と支援の促進
- ・ 指導体制の充実

○成果指標

成果指標	R 6 実績値		目標値
①特別支援対象者に対する個別の指導計画・教育支援計画の作成率	小学校 作成率 100%	中学校 作成率 100%	100%を維持する
②特別な支援が必要とする児童生徒の保護者との巡回相談員等を含め教育相談を行った回数	児童生徒一人当たり相談回数 小学校 5 回 中学校 4 回		前年度を下回らない
③教職員の特別支援教育に関する研修会等への参加の割合	小中全教職員の行政機関等による研修参加率	小 100% 中 100%	小中全教職員の行政機関等による研修参加率 40%

【取組状況】

町採用の特別支援教育支援員を小学校3名、中学校2名を配置し、一人一人に対応したきめ細かな指導ができる体制づくりを行っています。また、教育支援委員会の研修として、名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科の郡司竜平准教授を講師にお招きし「はじめての特別支援教育～子どもの行動には理由がある～」と題して教育講演会を開催しました。さらにケース会議開催を通して、幼小中が連携した中で引継ぎをするなど、特別支援対象の児童生徒の実態把握や一貫・継続した支援に努めています。

【自己評価】

保護者のニーズに合わせて一人一人に対応した指導体制が構築されています。また、教育支援委員会を通して小中の特別支援対象の児童生徒の実態把握・情報共有が図られています。

教育講演会では、特別支援教育の現状や具体例を交えながら障がいについて分かりやすく教えていただき、とても有意義な研修会を行うことができました。

【今後の課題・方向性】

特別支援教育については、児童生徒個々の状況に応じた適切な教育支援を行うため、引き続き特別支援教育支援員を配置し、教育環境や指導体制の充実を図ります。また、適切な支援を行うために組織された教育支援委員会の研修や情報交流などの活動を推進していきます。

教育支援委員会と連携し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちの巡回相談やケース会議を適切に行います。各学校においては、コーディネーターを中心に研修会及び講座

の開催日程を共有するなどして研修活動の充実を図ります。

(6) 多様な学びを支える質の高い教育環境の整備

- ・時代に即応する教材教具の整備
- ・快適で安全な教育環境の整備と体制の確立
- ・9年間の学びを支える教育環境の整備

○成果指標

	R 6 実績値	目標値
①ICT 機器の整備・活用状況	各学校の活用状況 小学校 100% 中学校 100%	各学校の活用状況 小学校 100% 中学校 100%
②地域住民と連携した安全確保の取組	小学校での地域下校指導 スクールガードリーダーの配置	地域学校協働本部と連携した 見守り活動の確立
③小中連携・一貫教育推進のための環境整備	連携教育推進委員会開催回数 3回	推進委員会の推進状況

【取組状況】

教材教具の整備については、学校教育の情報化やGIGAスクール構想の実現に向けて、校内通信ネットワークの整備を行ったため、校内で児童生徒1人1台が有効に活用できる環境を整えることができました。

児童生徒の安全管理や通学路等における安全確保については、学校、家庭、地域が一丸となった取組を進めるとともに「通学路安全推進会議」「スクールガードリーダー」による通学路の点検等を実施しました。

連携教育推進委員会が中心となって各事業計画を立てており、各部会において小中連携に努めています。

【自己評価】

ICT機器の整備が進んだことにより機器を用いた授業が行われ、校内で児童生徒がタブレット端末を活用する場面が盛り込まれた教育活動が日常的に構築されました。また、タブレット端末の持ち帰りによる日常的な活用も進んでおります。

地域と連携・協力した安全指導により、児童生徒の安全が維持され、安全意識の高揚が図られています。

小中一貫教育を目指した連携教育推進委員会を年3回開催し、各部会で協議することで小中連携を図ることができました。

【今後の課題・方向性】

ICT機器の活用については、タブレット端末の持ち帰りを含めた日常的な活用が進んでいますので、今後は教職員及び児童生徒がタブレット端末をいっそう効果的に活用できるよう教育活動の工夫を進めていきます。

安全教育については、通学路安全推進会議を開催し、関係機関との連携を図り、通学路

の点検等を行い、児童生徒の安全安心を確保する活動などを引き続き行っていきます。

小中連携・一貫教育については、連携教育推進委員会を中心に小中一貫教育を意識した活動を推進していきます。また、令和10年度の義務教育学校開校に向けて、更なる連携を図っていきます。

(7) 専門性と実践的指導力を高める教職員研修の推進

- ・指導力と授業力の向上
- ・教育研究と研修活動の充実
- ・健康な職場づくりの推進
- ・服務規律の順守の徹底と働き方改革の推進

○成果指標

	R 6 実績値			目標値		
		国語	算数数学		国語	算数数学 理科
①授業がよくわかると回答する児童生徒の割合	小学校6年生 中学校3年生	93.8% 91.7%	81.3% 58.3%	小学校6年生 中学校3年生	95% 85%	90% 70% 90% 70%
②職員の研修会等への1年間の参加延べ数	1人あたり参加数	小学校 中学校	6.9回 4.8回	全職員が8回以上参加		
③健康な職場づくり	職場健診、ストレスチェックの実施			完全実施の継続		
④働き方改革アクションプランの達成状況	1か月45時間を超えた教員の延べ人数 小8名、中11名 部活動休養日の実施 定時退勤日月2回以上実施			45時間を超えない(在校時間－勤務時間) 部活動休養日の実施 定時退勤日月2回以上実施		

※全国学力・学習状況調査

【取組状況】

小中学校では、算数・数学科の学習において、TT指導・少人数指導・習熟度別授業を実施し児童生徒一人一人に応じた指導を行い、児童生徒の理解を深めています。

職員の研修については、校務や授業に役立つアプリやソフトについて理解を深め、指導力の向上を図ることを目的に、町教研の研修会として下川町立下川中学校の谷口雄太教諭を講師に招き、講演をいただきました。

働き方改革については、教育職員の勤務状況を把握し、アクションプランの達成状況を確認し、指導にあたっています。各学校では月行事予定表や黒板等に定時退勤日を明記し、教職員一人一人の意識改革を図っています。

中学校においては、部活動指導に関わる負担軽減のため練習計画表を作成し、部活動休養日の徹底を図り、複数顧問制を実施して交替での部活動指導を可能にする体制を継続しています。

【自己評価】

小学校と中学校では、昨年度に引き続き、教育局より少人数指導や指導方法工夫改善のための教員の加配や町より特別支援教育支援員が配置され、きめ細かな指導体制が確保でき、児童生徒の基本的な学習の理解が進んでいます。

職員の研修については、町教育研究会の活動を活用して、独自の研修会を開催できたことは授業研究向上にもつながり、良い成果になるものと考えます。

働き方改革については、教職員の在校等時間、部活動休養日等は概ね守られており、アクションプランの達成状況は高いと考えています。

【今後の課題・方向性】

学校においては、町教育研究会を核とした授業研究などを通して教員の指導力・授業力向上へ向けての研修意欲を高める取組を推進します。また、タブレット端末の家庭への持ち帰りを踏まえ、授業のみならず家庭学習等での効果的な活用に関わる情報交流等が求められます。

働き方改革については、アクションプランに基づき学校閉庁日や部活動休養日、勤務時間の上限設定などを行い、取組の進捗状況を把握します。また、教職員一人一人が信頼される学校であり続けるために、教育課程の編成、授業研究、指導方法の工夫や改善を組織的に行い、学校力の向上が図られるよう支援していきます。

(8) 連携・協働による地域とともにある学校づくりの推進

- ・ 地域の学校参画の促進
- ・ 社会に開かれた教育課程の実現

○成果指標

	R 6 実績値	目標値
①地域学校協働活動ボランティアの登録人数	活動ボランティア 32 名	活動ボランティア 50 名
②地域の人材を活かした活動の回数	小学校 19 回 中学校 8 回	小学校 7 回 中学校 3 回

【取組状況】

学校運営協議会を年 2 回開催し、幼小中園校の学校運営方針の質疑・承認及び学校評価に関する意見交流・情報交換等を行いました。

地域学校協働活動ボランティアとして町民の方々にご登録していただき、小学校の「達人クラブの講師」、「スキー学習の補助員」、「マラソン大会コース監視員」として学校教育に協力していただきました。

中学校では愛別町にゆかりのある方を講師としてお迎えし、「愛の授業」を実施しました。

【自己評価】

学校運営協議会を 2 回開催し、園校の経営方針や評価についての共通理解を図ることができました。

小学校の「達人クラブ」は、前年度より 2 回増えての 3 回実施され、全 10 種のうちから選択し有意義な体験活動ができました。「スキー授業の補助」は、多くの指導者の協力をいただき、一人一人に対応した実技指導ができております。

「愛の授業」については、「愛別岐阜獅子神楽保存会」の皆様に講演及び演舞をいただき、入植時に五穀豊穡を願い舞われたとされる「お神楽」についての理解と、今後の保存継承の意義について学習することができました。

【今後の課題・方向性】

学校運営協議会については、引き続き年に数回開催し、評価及び意見交流・情報交換の他に、課題について様々な方により活発な議論を頂けるように「熟議」の場を取り入れてその解決を目指します。

地域学校協働本部においては、活動ボランティアの登録人数の確保に努め、学校教育への積極的な参画を促進します。

学校運営協議会と地域学校協働本部が活動の両輪となり、学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い学校運営に意見を反映させ、地域と学校がパートナーとして連携・協働した学校づくりを推進していきます。

「愛の授業」については、特色ある活動で生徒にとっては貴重な講演であるため、今後も継続するのが望ましいと考えます。講師の選定については、愛別町出身者に限定せず、愛別町勤務者等の愛別町にゆかりのある方をお願いすることとします。

3 社会教育

（１）幼児期の体験活動やスポーツ活動等の充実

- ・ 学習活動及び体験・スポーツ活動の充実
- ・ 協力していただける方の育成
- ・ 関係機関の連携

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目標値
①ブッククロール事業達成者数	延べ達成者数 24 名（72.7%）	延べ達成者数 33 名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

幼児期における学習・体験活動と親子ふれあい機会の充実として、幼児期に絵本に出会い触れることを目的としたブックスタート事業と、その後のフォローアップとしてブッククロール事業を継続して行っています。また、スポーツ活動の充実として、幼児水泳サポート事業を9回実施し、幼児スキー教室については愛別町スキークラブにご協力をいただき、3回実施しました。

【自己評価】

ブックスタート事業では、読み聞かせボランティアと連携して、町の乳幼児健診に合わせて行うことで、乳幼児を持つ全てのご家庭へ、乳幼児期からの絵本をとおした親子のふ

れあいの重要性を丁寧に伝えています。また、ブックスタート事業の直後からブッククロールを始められることで、その後の読書活動や図書室の継続利用につながっています。

【今後の課題・方向性】

ブックスタート、ブッククロール事業を継続するとともに、今後も読み聞かせボランティアと連携し、読み聞かせの重要性を伝えていく必要があります。また、ボランティアの育成のため、読みきかせの会と連携を図りながら、活動機会の提供や読み聞かせに興味を持つ人材の育成に努めます。

スポーツ体験については、幼児センターと連携して実施に努めるとともに、少年期においてのスポーツ体験活動についてスポーツ関係団体にご協力頂きながら実施していく必要があります。

（２）少年期における体験活動の推進とリーダーの育成

- ・地域の特性を生かした体験活動の推進
- ・各種団体への支援の充実
- ・子ども会リーダーの育成
- ・地域で子どもを守り育てる環境づくりの推進

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目標値
①チャレンジ元気塾（参加/児童）	41 名/89 名（46.0%）	元気塾 70%
②リーダー研修修了者数	修了者数 3 名（150%）	修了者数 2 名

※社会教育に関する事業評価・全国学力・学習状況調査

【取組状況】

地域資源を活かした様々な体験活動を行うチャレンジ元気塾を実施したほか、子ども会や青少年育成協議会の活動の支援を行いました。子ども会リーダー研修会については、3名の受講がありました。また、滋賀県東近江市愛東地区との少年愛のまち交流事業については、8名の子ども達が訪問しました。子ども会連合会行事については、かるた大会については中止となりましたが、球技大会、レクリエーション大会については実施し、子どもの主体的な企画を支援しました。

【自己評価】

チャレンジ元気塾については、全5回の実施とし、昨年度は3回が雨天により中止となってしまったことから、雨天時対応が可能になるよう、内容の調整を行いました。

石垣山の山道の状態が年々悪くなっていることから、国立大雪青少年交流の家周辺のハイキング事業を実施し、低学年と高学年に分かれ、2種類のコースを回りました。冬には同様に青年の家でクロカン・スノーシュー体験として新たな活動を実施しました。

リーダー研修会については、夏休みの多様化した生活の中で、積極的な参加が減少してきています。

少年期から地域の人やものに触れ合い体験することは、子どもの自己肯定感や地域社会への関心を高め、豊かな人間性を育むことから、今後も継続して体験機会を提供していく必要があります。

【今後の課題・方向性】

地域資源やふるさと教育に繋がる事業内容の検討を十分に行うとともに、地域の実情や開催時期等も考慮し、安心して参加でき、より参加のしやすい事業の実施に努めます。

子ども会活動や地域活動の活性化を図るため、今後もリーダーの育成に努めるとともに、子ども会や青少年育成協議会などの各種団体への支援を行います。

また、少年期から地域社会に触れ、体験することの重要性を広く伝えるため、学校・家庭・地域の連携の強化や啓蒙・啓発活動など、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりを行っていきます。

（３）青年期における地域と関わる学習機会の提供

- ・社会の担い手としての自覚を促す学習機会の提供
- ・地域意識の醸成
- ・人材養成と学習機会の提供
- ・インターネットによる情報提供

【取組状況】

はたちのつどいについては、令和４年度より新型コロナウイルス感染予防のため簡略化した内容で実施しておりますが、地域で２０歳を祝うとともに、地域社会の一員としての責務や自覚を促す機会となりました。

青年団体活動については、みこし担ぎや夏まつりの盆踊り大会の参加、青年同士の交流会に参加する等、活動再開の動きが見られました。

【自己評価】

はたちのつどいは、地域で人生の節目を祝うことで、自らと地域との関わりについて改めて考え、学ぶきっかけとなっており、今後も継続して実施することが大切です。

また青年団体活動への支援のほか、青年のニーズをとらえた学習機会を提供し、活動の場の拡充や地域づくりへの参画を図ります。

【今後の課題・方向性】

今後も社会人としての責任や義務を自覚し、人生の節目を祝福する場として「はたちのつどい」を継続して実施します。

また、青年団体活動に対して、今後も積極的に支援を行うとともに、青年のニーズをとらえ情報を提供し、活動の場の拡充や地域づくりへの参画を図ります。

(4) 成人期における地域活動への参画体制づくりと幅広い学習機会の充実

- ・学習機会の提供
- ・地域づくりを目指す団体等との連携
- ・専門的指導者の発掘と活用
- ・インターネット等の活用による情報提供

○成果指標

	R 6 実績値 (対目標値)	目標値
①青年、成人を対象とした学習機会の参加者数	ちいきの講座 19 名 (開催 1 回) ひまわり学級 21 名 (75.0%)	ちいきの講座 75 名 ひまわり学級 28 名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

ちいきの講座については、手しごとサロンとして活動されている協和地区の片桐さんを講師とし、夏休み期間中に押し花体験会を実施しました。また、自主的な学習を行うひまわり学級については、見学旅行や手芸教室等、学習内容を話し合いながら活動を行っています。

【自己評価】

ちいきの講座については、地域の人材の活用やニーズにあった様々な学習機会の提供を行っています。

ひまわり学級については、学生自ら学習内容を決め、主体的、精力的に学習活動を行っており、会員の交流、学びの場になっています。

【今後の課題・方向性】

時代に合わせた生涯学習や地域について学び考える学習機会の提供に努めます。

ひまわり学級については、自主的な学習と会員同士の交流や活動が失われないよう継続して支援していきます。

また、成年の社会参画を促す環境づくりのため、今後も生涯学習だよりやインターネットを通じた学習・活動機会などの情報提供に努めます。

(5) 高齢者の知識と経験を生かすシステムづくりと世代間交流の推進

- ・生きがいを高める多様な学習機会の提供
- ・自主学習グループへの支援
- ・学習情報提供のための環境整備

○成果指標

	R 6 実績値 (対目標値)	目標値
①ほうらい大学学生数	学生数 34 名 (85%)	学生数 40 名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

月別で様々な活動を実施しています。

異世代交流として幼児センターとの交流や、忘年会やレクリエーション大会等の実施により学生同士の交流を深めました。

【自己評価】

月1回仲間と集まり交流を深める社会活動へ参画することで、自己力向上と潤いある生活に寄与しています。

【今後の課題・方向性】

学習活動や仲間に出会うことを楽しみにしているという声が多く、今後も継続して生涯学習の機会を支援していくことが重要です。また、やりがいのある学習活動に向けた地域での活動の場の拡充やボランティア活動の推進に向けて検討していく必要があります。

4 文化の振興

（１）芸術文化に触れる機会の提供と成果発表の場の充実

- ・地域や学校と連携した活動及び発表機会の拡充
- ・団体の自主活動の支援
- ・インターネットによる情報提供

○成果指標

	R 6 実績値	目標値
①町文化祭における出演・出展団体(個人)数	出演出展延べ数 27 団体（個人）	出演出展延べ数 55 団体（個人）
②文化連盟加盟団体数及び加盟団体会員数	加盟団体数 11 団体 134 名 会員数	加盟団体数 12 団体 193 名 会員数

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

音楽行進は、町内外6団体による行進演奏を実施しました。町民文化祭については、作品展示は蔵らで実施し、児童生徒作品や町内の文化団体等の作品を展示しました。芸能発表については、開拓130年記念事業の『公民館交流事業～芸能フェスティバル～』の開催により、未実施となりました。

【自己評価】

コロナ5類移行となり、文化活動も徐々に再開されました。文化活動については、人々の心や暮らしに豊かさとゆとりを与え、考え、学ぶきっかけとなることから、様々な活動の支援を行いながら、継続していくことが必要です。

【今後の課題・方向性】

学校や地域と連携し鑑賞機会や成果発表の機会の充実に努めます。また、町民の主体的な文化活動を引き続き支援するとともに、生涯学習だよりやインターネットなどを通じた文化芸術情報や学習情報の提供に努めます。

（２）伝承・保護活動への支援

- ・文化の保存・保護意識の醸成
- ・郷土芸能伝承のための支援
- ・無形文化財保存のための後継者の育成
- ・史跡、文化財の保護

○成果指標

	R 6 実績値	目標値
①無形文化財伝承・保護活動 (例会を除く)	活動数 4 回	活動数 3 回

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

町の無形文化財である愛別岐阜獅子神楽については、地域行事に精力的に活動しており、継続して支援を行っています。

町の郷土資料を保管している文化財収蔵庫については、建物の老朽化が進んでいることから、将来的な保管体制を視野に入れつつ資料の整理を行い、代替施設（旧愛山小学校体育館）に移設を行いました。収蔵庫の整理については、次年度も継続していきます。

【自己評価】

愛別岐阜獅子神楽の活動については、神社祭や文化祭への出演の他、本年度は中学校での「愛の授業」の講師として継承活動を実施しました。また、郷土資料については、老朽化した建物の最低限の修繕をしながら、収蔵物の維持をしています。

【今後の課題・方向性】

愛別岐阜獅子神楽保存会の活動について今後も支援していくとともに、引き続き活動の場の拡充に向け保存会やその他の教育関係機関等との連携を強化していきます。

文化財収蔵庫については、将来的な保管場所の移設や郷土資料の活用も視野に入れながら資料の整理を進めていきます。

5 スポーツの推進

（１）スポーツ活動の提供と参加促進

- ・スポーツ活動への参加促進

- ・心を育む教室の開催
- ・サークル活動への支援
- ・学習機会の提供及び研修への参加支援
- ・スポーツ活動や施設利用に関する情報提供

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目標値
①健康づくり教室参加者数	健康づくり教室 2 講座合計 25 名延べ 313 名 (69.6%)	3 講座参加者延べ人数 450 名
②町民スポーツデー参加者数	町民スポーツデー 213 名	町民スポーツデー 400 名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

健康づくり教室のうち、アクアエクサイズ教室については、参加者が伸び悩んでおり新規の受講者の申し込みがなく、継続利用者のみの受講となりました。

町民スポーツデーについては 6 つの分館が実施しました。

【自己評価】

健康づくり教室については、受講者の増加を図るため様々な世代に対し魅力的な内容の教室を実施する必要があります。

また町民スポーツデーについては、スポーツの機会だけでなく地域の交流の場となっており、世代間交流が行われています。

【今後の課題・方向性】

今後も、効果的な各種スポーツ教室や大会を開催し、スポーツ活動の機会提供に努めるとともに、自発的なスポーツ活動を促し、だれもが、いつでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりに努めます。

（２）快適に使用できるスポーツ環境の充実

- ・快適に使用できる施設の提供

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目標値
①スポーツ関連施設利用状況 延べ利用者数	スポーツ関連施設 延べ利用者 29,449 名 (75.5%)	スポーツ関連施設 延べ利用者 39,000 名
②学校開放事業利用者数	学校開放事業延べ利用者 630 名 (22.5%)	学校開放事業延べ利用者 2,800 名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

指定管理による総合スポーツ公園の運営と学校開放によるスポーツ環境の提供を行い、ニーズに合ったスポーツ活動の場を提供しています。

【自己評価】

スポーツ関連施設の利用者はコロナ５類以降増加傾向にありましたが、令和６年度については横ばい傾向にあります。安全に利用できる施設運営を継続するとともに、日常的なスポーツ活動についても啓発、情報提供を行っていく必要があります。

【今後の課題・方向性】

老朽化が進んでいる施設が多いことから、各種補助金を活用し安全安心なスポーツ環境の整備に努めます。また、住民のニーズをとらえ、生涯学習だよりやインターネットなどを通じたスポーツ活動や健康づくりなどの情報提供、啓発に努めます。

将来を見据えた施設の活用方法や維持管理の方法、廃止等の検討も視野に入れた施設運営を行っていく必要があります。

6 基盤整備

（１）社会教育推進のための基盤整備

- ・既存施設の整備及び有効活用
- ・情報提供の充実

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目 標 値
①公民館図書室の利用者数及び貸出冊数	利 用 者 623 人 (37.8%) 貸出冊数 2,547 冊 (59.9%)	利 用 者 1,650 人 貸出冊数 4,250 冊
②公民館等施設の利用者数	利用者数 9,876 人 (51.9%)	利用者数 19,000 人

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

公民館図書室については、絵本の読み聞かせ会の協力を得ながら、手に取りやすい本の展示や除籍作業を実施しました。

また様々な地域活動や学習情報を提供し社会教育活動に地域が一丸となって参画する環境づくりを進めるため、毎月１回の生涯学習だよりの発行や町SNSなどを活用した情報発信を行いました。

【自己評価】

公民館図書室については、利用者や貸出冊数の目標値には届かないものの、限られたスペースの中で効果的な展示を行い、利用者から使いやすくなったとの声を頂きました。

公民館等施設については、前年度に比べ利用者が減少傾向にあります。

【今後の課題・方向性】

公民館等施設については、安全安心な施設運営のためきめ細かな修繕に努めるとともに、公民館を中心とした地域活動や交流の促進に向け、各分館と連携を図りながら公民館施設一体となって進めていきます。また、公民館図書室についても、引き続き蔵書の充実を図り、読書に親しみやすい魅力ある図書室づくりを行っていきます。

また、関係する部署と連携を取りながら、生涯学習、スポーツ、文化情報や地域活動などを広く伝え、町民の主体的な学びと活動を促進し、地域一体となって社会教育活動に取り組む環境づくりに努めます。

7 地域の教育力の向上

（１）連携と協働による地域の教育力の向上

- ・人材や自然を生かした学習機会の拡充
- ・関係団体の連携促進
- ・指導者の育成
- ・地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目 標 値
①青少年育成研修の集い参加者数	集い参加者 37 名（62％）	集い参加者 60 名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

子ども会育成会連絡協議会と連携し、子ども会連合会行事や育成会活動を支援しています。また、青少年育成協議会と連携し、青少年の健全育成や地域で行う子育てをテーマに研修会を実施し、また、地域学校協働活動としては、学校への地域ボランティアの派遣などを行いました。

社会教育委員等研修については、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催等がありましたが、全道社会教育長等研修会に 1 名、上川管内社会教育委員等合同研修会に 1 名、上川管内社会教育委員等合同研修会に 2 名の委員が参加しました。

【自己評価】

単位子ども会によっては、子どもの数の減少により活動を続けることが困難となっている地域もあり、今後の体制について検討が必要です。青少年育成研修の集いについては、本年度は、体験活動の重要性について講義を受けた後、参加者間による「ふるさと愛別への想い」を語り合う熟議の場も初設定し、自分事として参画できる研修会となりました。

社会教育委員等研修については、参加した委員からは大変勉強になった、社会教育について考えるようになったという声もいただいております、社会教育委員の資質向上につながっています。

【今後の課題・方向性】

子ども会の今後の在り方について検討していくとともに、子ども会の意義などを丁寧に伝え、地域の実情に応じた体制づくりと関係団体との連携等の支援を行っていきます。また、子育てや青少年の健全育成について、考え、学び、地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めるため、今後も青少年育成協議会と連携し、継続的な啓発活動や学習機会の提供、地域学校協働活動を推進していきます。

町の社会教育力向上のため、研修会への参加やその他情報提供を行い、引き続き社会教育委員の資質向上に努めます。

8 家庭教育

(1) 子育て家庭をつなぐ支援活動の充実

- ・子育て支援活動の推進
- ・子育て家庭の教育力の向上

○成果指標

	R 6 実績値（対目標値）	目 標 値
①子育て研修会の参加者数	20名の幼児とその保護者等 計39名（48.8%）	子育て研修会参加者数 保護者のみ35名 親子の事業80名

※社会教育に関する事業評価

【取組状況】

例年、青少年育成協議会と連携し子育て研修会を開催しています。

子育て支援グループとの連携による絵本をとおした親子のふれあいや、青少協だよりなどを通じた生活習慣の啓発活動などを行いました。

【自己評価】

家庭教育などについて学習する機会の提供とともに、同じ子育てをする保護者が悩みや思いを共有することで新たな学びにつながることから、親子の絆を深め他の家庭と交流する場を設けることが大切です。

また、子どもの豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力を身に付けるため、子育て支援グループや青少年育成協議会などと連携しながら、家庭教育や健やかな生活習慣などの啓発活動を継続していくことが重要であり、令和6年度も青少協だよりや生涯学習だよりで、早寝早起き朝ごはんなど生活習慣や家庭教育に関する啓発に努めました。

【今後の課題・方向性】

子どもの健全で確かな育ちの原点は家庭にあることから、今後も子育て研修会などの保護者が子育てについて学び交流する機会を提供するとともに、子育て支援センターや子育て支援グループなどとも連携しながら、地域社会全体で子育てを支える環境づくりと子育てをする親への支援に努めます。

(2) 学びのセーフティネットの構築

- ・ 学びのセーフティネットの推進
- ・ 安心・安全な子どもの居場所づくりの推進

○成果指標

	R 6 実績値	目標値
①愛別天神クラブ参加者数(参加率)	天神クラブ参加者 31 名 (34.4%)	天神クラブ参加者 70%
②チャレンジゼミ参加者数(参加率)	チャレンジゼミ参加者 15 名/41 名 (36.6%)	チャレンジゼミ参加者 60%

※社会教育に関する事業評価 (※参加者数/全生徒数)

【取組状況】

学校の夏季休業中における子どもの学力体力向上や学習習慣の定着と、仲間とともに学び体験する機会の提供の場として、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら愛別天神クラブを3日間実施しました。また、例年中学生を対象に行っている愛別チャレンジゼミについては、錬成会グループと連携し、タブレット等を利用した個別でのオンライン授業の他、参加者相互が刺激し合い、切磋琢磨できるように集合形式による学習の場の設定、マチコミメールを活用しての生徒の意欲・意思の継続が図られるように保護者を含めての各種情報提供及び実施喚起を行いました。

【自己評価】

愛別天神クラブについては、学習支援のほか、様々な体験や職業などにふれることで、色々なものごとに興味を持ってもらう機会となっています。また、旭川市の大学生にボランティアとして参加してもらっており、普段触れ合うことのない異世代交流が子どもにとってよい刺激となっています。

チャレンジゼミについては、生徒及び保護者へのアンケートから本アプリやテキスト、学校からの宿題、自分で考えての必要な学習への取組習慣について、「概ね身についた。」とする回答を得られるなど、学習意欲の向上及び定着化が図られたと考えられます。

【今後の課題・方向性】

チャレンジゼミについては、目標が達成されたことから事業を終了しますが、引き続き、放課後や長期休業期間中における家庭学習や体験活動などの支援を行っていくとともに、安心安全な子どもの居場所をつくり、だれもが気軽に参加し学ぶことができる環境の提供と、様々な場面で子どもを見守り、だれもが取り残されることのない学びのセーフティネットの構築を進めていきます。